

# とことん！淡路島ぐるりんロード

8月14日（金） ～ 8月18日（火）

IN 諭鶴羽神社、国立淡路青少年交流の家、民宿『西田荘』

	午前	午後	夜
1日目	淡路島に向けて出発 ぐるりんスタート	ぐるりんサイクル	諭鶴羽山到着・振り返り
2日目	ぐるりんサイクル	施設到着・昼寝 レクリエーション	振り返り
3日目	海遊び	海遊び 野外炊飯	振り返り
4日目	ぐるりんサイクル	ぐるりんサイクル 民宿到着	振り返り
5日目	ぐるりんサイクル	淡路島を出発 解散	

一日目： 今年も元気に淡路島を一周します。各集合場所から明石に集まり、自転車を借り、フェリーにて淡路島に上陸しました。広場にて、自転車のルールや注意事項をしっかりと聞いた後、『発進・停止』が出来るか走行試験を行いました。「車間距離」や「相手を抜かさない」など基本的な事ですが、どのグループも失敗しては話し合い、そしてチャレンジと何度も行っていました。無事走行試験に合格し、いざスタートです。天気は薄雲が張り、走行日和です。どのグループも順調に進まれていました。メンバーの個性によって少しずつ課題が出てきました。その度に停まり、話し合い、再び走り、これを繰り返す、昼食を挟み午後にはすっかりグループのカラーが濃く出ていました。洲本市を越え、「由良」を越えると最大の難関である山越えです。手押しでひたすら1時間登り続け、スピードに注意を払いながら、一気に駆け下ります。この頃には自然とメンバー同士で声を掛け合い、お互い意識を高めていました。そして、ついに本日のゴールに到着しました。宿場は毎年お世話になっている諭鶴羽山の神社の休憩所です。夕食を済ませ、今日一日の振り返りを行いました。振り返り内容は『5日目にこういったグループになりたいか』を話し合い、その為は何をしなければいけないか話し合ってもらいました。決めた目標を2日目に頑張れるか楽しみです。

二日目： 早朝より起き、朝食を済ませ、荷物の片付けや着替えなど出発の準備を行いました。それらが終わると、お世話になった諭鶴羽神社へ奉仕活動として敷地内の草抜きを行いました。奉仕活動を終え、荷物をまとめ山を降りました。皆、元気な声と共に途中で疲れる事なく下り、すぐに自転車に乗り出発しました。足取りは良く、途中の大きな丘も難なく越え、予定通りに施設に到着する事が出来ました。施設に到着すると部屋に荷物を入れ、食堂にて昼食をいただきました。食事中、自然と笑みがこぼれ、会話が弾み、前半の道中を振り返っている様子も見られました。食後は『お昼寝』です。体力を回復させるのも活動の一環として、涼しい部屋で枕を持参し寝ました。初めはお喋りがありましたが、すぐに寝静まりました。昼寝の後は、砂浜でレクリエーションをして体をたくさん動かしました。ビーチフラッグで自ら砂場に飛び込んだり、砂山崩して棒が倒れるギリギリを攻めたり、この順位結果が4日目以降のお小遣いに影響してくるので誰もが必死に取り組みされていました。夜はたっぷり時間をかけて振り返りを行いました。各々の頑張ったことなどに始まり、1日目に決めた目標を達成できたか、達成出来たのであれば、どうやって達成できたか、そのときのみんなの動きはどうだったか、達成出来なかった場合は、何が必要で足りていなかったか、どうすればよかったか、など深い内容を納得いくまで話し合いました。グループや個人の意識が高まってきています。どのような変化が起こるか楽しみです。



三日目： 本日は完全な充電日として楽しいプログラム目白押しの日です。朝から近くの「阿万海水浴場」に向かい海遊びを行いました。飛び込み台から何度も飛び込んだり、堤防まで遠泳したり、サンドアートをしたり、楽しい事に全力で取り組んでおられました。お昼を挟んでも楽しみは続き、帰る頃には疲れが露わに現れ、帰りの自転車は少しフラついていました。帰ってくると野外炊飯です。今回のメニューは『焼きそば』で、やる事の担当や手順を話し合った後、早速調理を開始しました。グループによって様々な切り方ではありましたが、嫌な顔一つせず、美味しそうに笑顔で頬張っていました。全てのプログラムが終わると、一日の振り返りです。3日目となると、意見も多く、話し合いはもつれましたが、その分内容の濃い話し合いが出来ていました。



四日目： 後半スタートです。朝早くから自分達の荷物を運び出し、お世話になった部屋や廊下を清掃し、出発の準備を行いました。朝食後に本日のお小遣いをもらいスタートしました。前半と違い、後半は序盤からみんなの顔は真剣で、お互い声を掛け合い、どのグループも順調に走っていました。ただ、前半と違い、いつ雨が降るか分かりません。天気とにらめっこしながら必死に走りました。昼食は「道の駅うずしお」で食べました。途中から雨が降り始めたので急いで食べ、再び出発しました。豪雨になると軒下に避難し、止むと走る、その繰り返しでついに今回の宿場である『西田荘』に着きました。西田荘の方々の温かいお迎えにみんなの疲れは大いにやすらぎました。晩御飯はBBQです。誰もが笑顔で楽しく食べられていました。また、西田荘の方からのご厚意で「スイカ割り」や「屋台」を楽しませていただき、就寝ギリギリまで楽しい時間は続きました。



五日目： 起床時間を過ぎてても寝静まっていた。重そうな体を起こし、着替え、洗面を済ませました。朝食をいただき、荷物をまとめたら、昨夜できなかった振り返りを行いました。しっかりと話し合い、最終日の目標を決め、各グループ出発しました。どのグループも黙々とゴールを目指されていました。道の確認や声掛けを自分達で促したり、水分を補給するタイミングをリーダーの指示のもとではなくメンバー達で決めたり、主導性でグループを進めていました。淡路島一周も終盤に差し掛かり、ついに明石海峡大橋が見えてきました。見えた事により一層やる気がみなぎり、こぐ姿に力強さを感じました。そして、ついに一日目に出発した「岩屋港」に帰ってきました。ゴール後は休みながら、最後の振り返りをしました。自分達の理想のグループを目指し様々な事を決め、それを実行し振り返り、このキャンプ中ずっと考えてきました。自分達は理想のグループになることができたのか、じっくりと納得いくまで話し合いました。フェリーの出発の時間ギリギリに到着したグループもありましたが、全員ゴールが出来、淡路島を出発しました。



## <キャンプ総括>

淡路島のキャンプには様々な魅力が詰まっております。自転車で淡路島を一周チャレンジすることはもちろんのこと、民宿での贅沢なお泊り、道中にて自分で選び購入することができる昼食やおやつ、疲れた体を存分に癒し楽しむ海遊びなど、メンバーによって一番思い出に残っていることは様々だと思います。その中で、私が重きにしているプログラムは毎夜行った『振り返り』です。振り返りをせずに一周を行うと、自身の達成感はあるのですが、グループで分かち合うことは難しいかと考えています。

振り返り中は楽しい時間だけではなく、揉める時もあります。お互い想いが違うので意見も違います。そこに激しい体力の消耗が重なり、相手を思いやる余裕が持てない時があります。結果、話し合いの上で相手を傷つけたり、悲しませたり、嫌な思いをさせてしまう言動や行動を起こしてしまいます。しかし、我々はそれもグループ形成の一環として考え、メンバーが一つ上に成長する時を見守り続けます。一人一人が気づき、友達に思いやりを持ったとき、グループの絆は大きなものとなります。決して楽しいことばかりではないからこそ大きな成長を感じ、それが自信に繋がります。こうした経験がギュッと詰まっていることが『淡路島ぐるりんロード』の大きな魅力であると考えています。（竹中 哲郎）